

創作版画とは、明治末期から大正期にかけて沸き起こった版画運動を起源とし、伝統的な錦絵の分業スタイルに対し、下絵の作成から彫り、摺りのすべてを一人で行う自画自刻自摺の、主に木版画を指します。いわばそれまでの工芸的な版画から、芸術性を前面に押し出した近代日本の成長過程のなかに現われた美術運動でした。

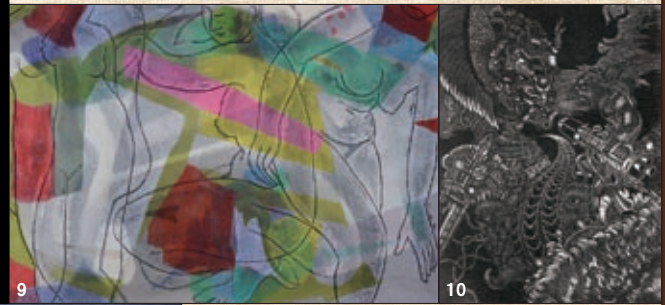
日本創作版画協会が大正7年に結成され、その第1回展に萬鉄五郎も出品しています。彼自身、版画には大正初期から取り組み、表現主義的な作品が知られ、版画も表現の一形態として、晩年にいたるまで断続的に発表しています。このように岩手の創作版画の起源をひも解けば、萬鉄五郎に行き着きます。萬を基点として、創作版画の岩手という地域的括りのなかで、大正期から現代までの流れを見ていこうとするのが本展のねらいです。

今日、版画の技法も多様化し、その概念

さえも揺らぎつつあり、新たな地平を切り開こうとしているのも版画という表現手法の特徴といえます。たしかに創作版画といっても、初期からその技法は木版画に限られるものではなく、銅版画をその概念で制作したものもあつて、創作版画を木版に限定するのはいわば片手落ちということになります。

そこで今回は、岩手創作版画の系譜の第1弾として、木という素材に限定し、技術的な変遷もさることながら、木版を通して表現性がどのように培われ、変遷してきたか検証を試みたいと思います。近代から現代まで14人の版画作家によって、2部構成でその表現性をみていきます。

いわて創作版画の系譜 「近現代木版画展」



《関連事業》 第32回 萬鉄五郎祭

【日時】5月3日【木・祝】14時〜【会場】萬鉄五郎記念美術館

【式典】献花、「鉄人独語」朗読など
【お茶会】10時〜16時 お茶券1,000円（1席、2席共通、美術館入館料含）

アート&クラフト《土澤》マーケット

日時：5月3日【木・祝】、4日【金・祝】10時〜16時 会場 萬鉄五郎記念美術館前庭&土澤商店街（雨天決行）

ギャラリークンサート
日時：7月15日【日】14時〜 会場：萬鉄五郎記念美術館（入場無料）
演奏者：弦楽四重奏「ラトゥールカルテット」メンバー：山口あうい、馬場雅美、熊谷啓幸、三浦祥子

《入館料》*（内は20名以上の団体料金）
一般／500円（450円） 高校・大学生／300円（250円） 小・中学生／200円（150円）

1. 田村靖樹 「YUMEWASAMENAI」 1998年 木版多色刷 32.0×48.0cm
2. 村上誠 「真の伝説」 2011年 木版リトグラフ 45.0×29.5cm
3. 大島庸世 「みよしの青雲」 2008年 木版多色刷 55.0×80.0cm
4. ちばあきえ 「Rode race」 2009年 木版多色刷 50.0cm×60.0cm
5. 萬鉄五郎 「芸術座の人」 1913年頃 木版 19.5×13.0cm
6. 秋原吉二 「遠乗り」 1948年 木版多色刷 52.3×36.0cm
7. 穀蔵力 「風の又三郎」 1986年 木版 59.5×91.0cm
8. 及川富次 「淡雪の千手院」 1984年 木版多色刷 24.5×35.5cm
9. 高杉克己 「対峙」 2011年 木口木版 20.0×15.0cm
10. 八上晃任 「夜露」 2004年 木版多色刷 30.0×40.0cm
11. 大場富生 「青年」 1937年頃 木版 11.4×10.8cm
12. 高橋忠彌 「庭光」 1965年頃 木版単色刷 60.5×45.0cm
13. 舞田文雄 「すすく庭」 2011年 木版版画（木口木版）刷り 21.0×27.0cm
14. 南館麻美

萬鉄五郎記念美術館



岩手県花巻市東和町土沢5区1-6番地 TEL.0198-42-4402 FAX.0198-42-4405